



お問い合わせ先:

英国での PrEP ガイド ライン

- 英国での利用状況
- 検査と経過観察
- PrEPを購入する方法
- 様々な服用方法

目次

はじめに	3
イギリス国内のPrEPの利用状況	3
予備知識	4
女性のためのPrEP	8
トランスジェンダーとノンバイナリージェンダーの方のPrEP	10
インターネット上でPrEPを購入する	11
始める前に	12
PrEPを継続して服用するために..	14
PrEPの服用方法	15
膣性交又は肛門性交のためのPrEP	16
肛門性交に限りオンデマンドPrEPも有効	17
オンデマンドPrEPの例	18
PrEP服用に関するその他の情報	21
クレジットと及び詳しい情報	24

Written by Dan Clutterbuck, Simon Collins, Sheena McCormack, Achyuta Nori, Will Nutland, Greg Owen, Mags Portman, Michelle Ross, Sophie Strachan, Martina Toby, Laura Waters and Aedan Wolton. Cover graphic: iwantPrEPnow.co.uk. Thanks to MAC AIDS Fund and the Monument Trust for financial support.

ISSN 2398-6409 (i-Base, London, 3rd edition, September 2017)

はじめに..

この冊子はイギリス国内におけるPrEPのガイドブックです。

当初は、インターネットを經由してPrEPを購入する人を支援するためにこの冊子が作成されました。この改訂版は、現在PrEPを処方されている方やPrEPの臨床試験に携わっている方にも活用いただけるよう考慮されています。

PrEPとは、テノホビル (TDF) とエムトリシタビン(FTC)を含む錠剤を組み合わせた合剤を指します。PrEPを正しく服用することで、性行為におけるHIVウイルスの感染の危険性は大きく減少します。

イギリス国内のPrEPの利用状況

以前のガイドブック発行後の進捗状況は以下のとおりです

- ・スコットランドはPrEPの保険償還が出来るようになりました (NHS Scotland)。詳しくはこちらをご覧ください。 www.prep.scot
- ・イングランドでは現在、PrEPに対する保険償還の制度はありません (NHS England)。その代わりに、約一万人が臨床試験であるPrEP IMPACT 試験にてPrEPを入手することが出来るようになっていました。IMPACT 試験は2017年9月に始まり、その後三年間にわたり行われる予定ですが、募集人数が早めに上限に達する可能性があります。
- ・ウェールズでは、上記に類似したPrEPARED試験が行われており、現在のところ、被験者数の上限を設けておりません。
- ・北アイルランドではPrEPは現在利用できません。
- ・DISCOVER試験では（被験者募集終了）既存のPrEPと新しいPrEPの比較研究がなされています。
- ・多くの方がインターネット上の薬剤販売サイトを利用してPrEPのジェネリックを継続して購入する傾向があります。

2017年9月

予備知識

PrEPってなに？

PrEPはpre-exposure prophylaxis（暴露前予防投与）の略称です。性行為の前にPrEPを服用するので、Pre-exposure 「暴露前」という名が含まれています。Prophylaxisは「感染を予防する」という意味です。つまり、HIV陰性者はPrEPを服用することで、HIVウイルスの感染予防が出来るということを意味します。

現在、PrEPはテノホビル（TDF）とエムトリシタビン(FTC)の二剤を含む合剤の内服薬です。ブランド医薬品のツルバダ®が一般的ですが、ジェネリック医薬品も入手及び利用可能です。

TDFとFTCの両剤とも、HIVの治療のために幅広く利用されています。PrEPとしては、2012年にアメリカ、2016年にヨーロッパで承認されました。

PrEPが必要な人とは？

もしあなたがHIV陰性で、かつコンドーム無しで性行為をすることがある場合、PrEPはあなたがHIVウイルスに感染する危険性を減らしてくれるでしょう。

HIV感染確率が高いその他の要因として、以下が挙げられます。

- 最近、性感染症（特に直腸の感染症や梅毒など）にかかった。
- 最近、PEP(曝露後予防)を利用した。
- 性行為の際に薬物を使用している（クリスタルメス、メフェドロン、GHB）。
- HIV陽性者のパートナーが、治療薬をしっかりと服用していない。

心当たりのある方は、医師や看護師にその危険性について相談してみてください。

PrEPを服用してはいけない人とは？

以下の人はPrEPを服用してはいけません。

- HIV陽性者

以下の人に関しては、PrEPは通常必要ではありません。

- 抗ウイルス療法を受けていて、ウイルスの量が検出値未満のHIV陽性者をパートナーとしているHIV陰性者。ウイルスの量が検出値未満とは、HIVの感染力がないことを意味しています。
- 性行為の際にはいつもコンドームを使用できている方。

効き目はどれくらい？

PrEPのHIV感染予防効果は感染リスクを減少させる上でかなり有効といえるでしょう。正しく服用すれば、効果は高いといえます。

世界的に見ても、PrEPを服用している何万人の中で、HIV感染の報告があったのはわずか三例です。その内二例は、薬剤耐性を持つHIVウイルスによる感染でした。しかし、薬剤耐性を持つHIVウイルスはイギリス国内で稀といえます(7ページ目参照)。

PrEPとその副作用

PrEPを服用する人々の大半に副作用は出ていません。

しかし、その他様々な薬と同様にPrEPにも副作用を引き起こす可能性はあります。臨床試験では、軽度の吐き気や下痢、腹部膨満感、頭痛といった副作用が服用して一ヶ月以内に十人に一人の割合で報告されています。これらの副作用は多くの場合、治まります。

時折、PrEPはより深刻な副作用を引き起こすこともあります。腎機能の低下や骨の健康を損なうなどの可能性があります。そのため、治療前と治療中に血液検査が行われています。

PrEPと薬剤耐性

正しく服用すれば、薬剤耐性の危険性は非常に低いといえます。

第一に、薬剤耐性はヒトに対してではなく、HIVウイルスに対して形成されます。よって、HIV陰性者がPrEPに薬剤耐性を持つことはありません。第二に、薬剤耐性が危険になるのはHIV陽性者になった場合のみです。その場合でも、危険性は低くなります。

薬剤耐性ができてしまうのは以下が原因です。

- すでにHIV陽性になっていると知らずにPrEPの服用を始めてしまうこと。だからPrEP服用前のHIV検査が必要不可欠なのです。
- PrEPの服用を途中でやめてしまったことで、その間にHIV陽性になり、服用を再開する前にHIV検査を受けないこと。
- PrEPの服用忘れが多すぎる場合。体内の血中濃度が低すぎて、HIVウイルスの感染を防ぐことができなくなってしまいます。
- 薬剤耐性を持つHIVウイルスに感染すること。これは稀なケースです。世界的に見ても、薬剤耐性を持つHIVウイルスが原因でPrEPが上手く作用しないケースは二例しか報告されていません。

PrEPとその他の性感染症

PrEPは他の性感染症を予防してはくれません。コンドームはその他の多くの性感染症予防のために役に立ちます。

その他の性感染症の治療は比較的容易ですが、時折その症状が不快だったり、深刻になったりすることがあります。よって、性感染症の定期検査が推奨されています。

ヒトパピローマウイルス(HPV)のワクチンはコンジローマや子宮頸がん、肛門がん予防に繋がります。ゲイの男性にも新たに利用されてきています。

PrEPは薬物相互作用がありますか？

PrEPは大半の薬剤との間で相互作用は見られません。しかし、他の薬を処方された場合は必ずかかりつけ医を含め処方した医師にPrEPを服用していることを伝えてください。また、薬剤師に一般用医薬品も含めて薬物の相互作用がないかどうか確認することができます。

重大な例外として、TDFは非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)のいくつかと薬物相互作用があります。特にジクロフェナクと薬物相互作用があることがわかっています。

PrEPとNSAIDsの両方を服用してしまうと、腎臓に悪影響を与える可能性があります。イブプロフェンとナプロキセンとも相互作用するので、PrEPを服用する際はこれらの薬剤を避け、医師に相談して下さい。

PrEPはトランスジェンダー、ノンバイナリーのホルモン治療を受けている方にも非常に安全です。(10ページ目を参照)

PrEPの薬物相互作用やホルモン治療についての詳しい情報はこちらのリヴァプール大学のウェブサイトをご参照下さい。

www.hiv-druginteractions.org

女性のためのPrEP

なぜPrEPを服用するのか？

HIV感染の危険性が高いとされる女性は、HIV陰性を維持することを目的としてPrEPを日常的に服用することができます。

HIVウイルスの感染が最も懸念されるのは、HIV陽性者のパートナーとの性行為の際にコンドームを常に使用していないことです。ただし、それは性行為をする人がHIVの治療を受けていない又は受けていても薬をきちんと服用していない場合のみです。

コンドームを使用することでHIV感染から身を守ることができます。HIV陽性者でも、治療中でウイルス量が検出値未満なら他の人へ感染させることはありません。

PrEPを検討すべき他の理由として以下が挙げられます。

- 相手がコンドームをなかなか使用しないか、応じない場合。
- 金銭または物品のために性行為をしていて、なおかつパートナーがHIV感染の危険がある場合。

例えば:

- パートナーがHIV感染が珍しくない国の出身の場合。
- バイセクシュアル又は他にパートナーがいる場合。
- 最近、あなたがイギリス国内に移住してきている場合。
- あなた又はパートナーが薬物を使用していて、その注射器を共有している場合。

避妊

PrEPはホルモン剤による避妊法とも安全に服用することができます(リング、貼付剤、ピル、皮下インプラント。) PrEPが避妊法に影響を与えることはありません。また、避妊法がPrEPに影響を与えることもありません。

妊娠

もし妊娠を計画中又は避妊法を使用していない場合、PrEPを日々服用することでHIV感染からあなたを守ることができます。

しかし、もしパートナーがHIV陽性者だと分かっている場合、まずはパートナーの方がHIV治療を始めた方が良いでしょう。もし、パートナーのウイルス量が検出未満なら感染能力が無いので、PrEPを服用するメリットはないでしょう。

しかし、PrEPを服用中に妊娠が分かった場合は、医師に相談して下さい。というのも、妊娠中のPrEPの服用を推奨するか否かの是非がこのガイドブック完成時にはまだ見直しの最中であったからです。

授乳期間

イギリス以外の国では、HIV陽性である多くの女性が授乳期間中のHIV治療としてPrEPを服用しています。

母乳にはごくわずかの量しかFTCとTDFは含まれていません。その含有量は、赤ちゃんのHIV治療に使われる量よりはるかに少量です。(FTCは2%、TDFは0.03%)

これは授乳中にPrEPを安全に服用できることを表しています。

PrEPを服用する女性のためのウェブサイト

新しく開設されたイギリス内コミュニティサイトには女性のためのPrEPの情報が多く掲載されています。

トランスジェンダーとノンバイナリー ジェンダーの方のためのPrEP

トランスジェンダーやノンバイナリージェンダーの方にとってPrEPは安全で効果的です。

どう服用するかは、性行為の種類によって決まります。しかし、基本的には毎日の服用を推奨しています。

膾性交をする方は誰でもPrEPを最低でも一週間に六日間服用する必要があります。これは、予防するために必要なPrEPの当該組織における濃度を安定させるためです。

状況に合わせて服用すること(オンデマンドの服用)は、HIV感染の危険がアナルセックスのみの場合を対象とします。

PrEPはホルモン治療と合わせて服用することができます。薬物相互作用について懸念されるかもしれませんが、PrEPはホルモン量に影響を与えることはありません。

ホルモン治療と他の抗HIV薬との薬物相互作用について、リヴァプール大学が発行しているこちらの冊子が有効な情報源となるでしょう。

tinyurl.com/y9k6ym6f

www.hiv-druginteractions.org/printable_charts

現在進行中の臨床試験は、トランスジェンダー女性におけるPrEPとホルモンの関係を対象としています。トランスジェンダー男性についても同様に研究されることが期待されています。

CliniQはロンドンを拠点としている専門クリニックです。トランスジェンダーの方の性に関する心と体の健康についての情報を提供しています。この団体もPrEPの最新情報を発信しています。

cliniq.org.uk

インターネット上でPrEPを購入する

EU圏外からPrEPのジェネリック医薬品を購入することは、個人での使用の範囲内なら違法ではありません。

ジェネリック医薬品とは、ヨーロッパでその特許を持っていない製薬会社によって作られた、ブランド医薬品と同じ成分を持つ薬です。個人使用の日常的使用範囲は、三ヶ月分以内までと定められています。

PrEPのジェネリック医薬品として幅広く使われている薬剤は二剤あります。Cipla社のTenvir-EMとMylan社のRicoVir-EMです。どちらも利用に不可欠なアメリカ食品医薬品局の承認済み薬剤です。その他の承認済みPrEPのジェネリック医薬品はこちらのウェブページに掲載されています。

www.fda.gov/InternationalPrograms/PEPFAR/ucm119231.htm

インターネット上でPrEPを購入した場合、薬剤が届くのに時間がかかることがあります。最低でも一ヶ月ほど余裕をもって注文するといいです。

注文の際には、薬剤がTDFとエムトリシタビンの両方を含んでいることを確認して下さい。Tenvir単剤だけ又はRicoVir単剤だけでは良くなくて、Tenvir-EM又はRicoVir-EMといったTDFとFTCの合剤が必要です。イギリス国内のいくつかのコミュニティのウェブサイトでは、どこでどのようにPrEPを購入するべきかなどの情報を掲載しています。

iwantprepnow.co.uk

prepster.info

i-base.info/qa/category/prep

インターネット上でどのような品物を購入する場合であっても、注意を払う必要がありますが、56 Dean Street(ロンドンにあるセクシャルヘルスクリニック)はiwantPrEPnowに掲載されているPrEPのジェネリック医薬品は信頼できるという報告を出しています。一年間PrEPのジェネリック医薬品を服用した計四百人からは、HIV感染は報告されていないということです。[1]

PrEPをインターネット上で購入した方のために、いくつかのクリニックでは検査やアドバイスを提供しつつPrEP服用者を支援しています。ただし、イギリスの医療保健サービスは、当該機関の提供する医薬品のみ、たとえば、IMPACT試験で使用されたPrEPのジェネリック医薬品のみ責任を負うことと定められています。

11ページに掲載されているコミュニティのウェブサイトでは、正しい薬剤を入手する上で役立つ情報が掲載されています。

出典

1. Nwokolo N et al. IAS 2017, Abstract WEPEC0962.

<http://programme.ias2017.org/Abstract/Abstract/5033>

始める前に

まず、健康アドバイザーや看護師、医師に相談してください。PrEPを始めたい場合や既に服用をしている場合でも、あなたの力になってくれるでしょう。

PrEPを始める前にHIV検査を受けることが重要です。

PrEPはHIV陰性者にのみ服用が許されています。すでにHIV陽性で陽性であることに気づいていない場合は、薬剤耐性が形成される可能性があります。

「第四世代HIV迅速検査」をお求めになって下さい。これは別名、抗原抗体検査と呼ばれています。これを受けることで、約四週間前の時点でのHIV感染状況を知ることができます。

指に針を刺して検査する型の多くは現在、「第三世代」のもので、この検査方法では、二、三ヶ月前の自身のHIV感染状況を知ることができます。ですから、もしそれより最近に感染の危険がある場合はPrEPを始める際にこの検査結果を当てにしない方がよいでしょう。

もしPrEPの服用を考えていて、四週間以内にHIV感染の危険がある行為がある場合は服用を開始して四週間後に、また第四世代HIV迅速検査を受けて下さい。これは、服用初期の段階でHIV感染を見逃さないためです。

HIV感染の危険がある行為を直近で行い且つインフルエンザのような症状がある場合はPrEPの服用は慎重にしてください。これらの症状はHIV感染の初期症状の可能性があります。

PEPの後にPrEPの服用開始を考えている場合は、必要に応じて至急始めた方が良いでしょう。第四世代HIV迅速検査をPEPを終えて四週間後又はPrEPを開始して四週間後に受けることが理想的です。そしてまた、PrEPを開始して四週間後に同じ検査を受けて下さい。

腎臓の検査をしよう

腎臓検査ではクレアチニンの血液検査を行います。尿たんぱくを調べるために尿検査を行うこともあります。これらの検査はPrEP開始の前またはその当日に行われるのが理想的です。

その他の性感染症にかかってないか確認しよう

性生活を送っている方は、HIV検査や性感染症の検査を受けましょう。PrEPの服用に関係なく大切なことです。

B型肝炎の検査を受けよう(HBV)

B型肝炎の検査を受けることは必要不可欠です。PrEPの薬剤はHIVとB型肝炎ウイルス (HBV) の両方に作用するからです。

この機会にワクチンを接種又は再接種しましょう。2017年はワクチンが不足しており、待つ必要があるかもしれませんが、クリニックに相談してみてください。

B型肝炎ウイルスを持っていてもPrEPは服用することができます。しかし、より慎重にしなければなりません。B型肝炎ウイルスを持っている方は医師の指導の下でPrEPを毎日服用する必要があり、特に服用をやめる際には医師に相談する必要があります。

PrEPを継続して服用するために..

PrEPを開始した後は、経過を観察することも同様に重要です。現在、PrEPを服用していて経過観察をされていない場合は、クリニックにその時点からしてもらえるように相談しましょう。

三、四ヶ月毎に..

・第四世代HIV迅速検査を受けましょう。これは別名、抗原抗体検査と呼ばれています。

・その他の性感染症が無いか、しっかりと検査しましょう。

・性感染症の検査の際には、尿たんぱくを調べるため尿試験紙検査を受けましょう。もし、検出されたと認められれば、追加の血液検査又は尿検査が行われる場合があります。

・四十代以上、又は腎臓が悪い方は腎機能を調べるために追加の血液検査が義務づけられる可能性があります。

十二ヶ月毎に..

・腎機能を調べるために血液検査を受けましょう。

・ゲイ男性との性行為をしている場合はC型肝炎の検査を受けましょう。

トランスジェンダー又はノンバイナリージェンダーの方へ

もしホルモン剤との組み合わせで心配の場合は、医師にご相談ください。エチニルエストラジオール（PrEPと一緒に組み合わせてはいけない）以外は、ホルモン量に影響を与えることはありません。しかし、心配なようでしたらその旨を医師に伝えてください。

PrEPの服用方法

この項目では、様々なPrEPの服用方法について紹介します。

HIVウイルスが体内に宿るのに必要な時間（約一日から三日程度）についても紹介します。また、PrEPが体内に吸収され効果を発揮するのにかかる時間（数時間から一日程度）についても紹介します。

性行為の前にPrEPに含まれる二剤の体内血中濃度が十分な値に達している時、PrEPは最も効果的です。しかしながら、例え服用が遅くなったとしても、PrEPを服用していないよりは良いといえます。

成分の吸収と服用方法

身体が成分を吸収するためには時間がかかります。よって、PrEPは性行為の前後両方で服用しなければなりません（性行為前に血中濃度を上げ、性交後にその濃度を維持するためです）。

また薬剤によって吸収速度が異なります。エムトリシタビンは急速に体内に吸収され数時間以内に予防効果がありますが、効果の減少もまた早いといえます。一方、TDFは二十四時間かけて直腸と生殖器組織に到達します。その分効果も長く続きます。

自身の状況や性行為の頻度に応じてPrEPの服用方法を変えることが可能です。

膣性交の場合は、毎週少なくとも六日間、毎日PrEPを服用する必要があります。また、一週間服用した上で予防有効量に到達させることが理想的です。これは、膣組織と直腸組織ではPrEPの成分の吸収が異なるためです。

肛門性交の場合、PrEPを毎日服用することを推奨するようなデータがより多く存在しています。しかしIPERGAY試験では、性交渉毎のオンデマンドPrEPも肛門性交では非常に効果的であることがわかっています。IPERGAY試験では、性行為の前に合剤を二錠飲み、性行為二十四時間後に一錠、そして四十八時間後にもう一錠服用したデータとなっています。

性交渉毎のオンデマンドPrEPは、膣性交を行う女性又はトランスジェンダー女性には適していません。オンデマンドPrEPは膣性交を行うトランスジェンダー男性にも適していません。これらのケースの場合、PrEPを毎日服用することが推奨されています。

膣または肛門への挿入をする性行為が唯一のHIV感染の危険性である男性にとっては、オンデマンドPrEPでも問題ないようですが、毎日服用の方がデータとしてより多く存在しています。

最善の服用方法とタイミングを見つけるために、ぜひ医師にご相談ください。

膣性交又は肛門性交のためのPrEP

PrEPの臨床試験のほとんどが、毎日の服用を採用しています。

PrEPを毎日服用することで、二十四時間、毎日ずっと血中濃度を予防効果のある量で維持することができます。そうすることで、性行為の前にPrEPの服用を調節する必要がなくなります。

毎週性行為を行う場合、PrEPの服用を日課にすることで継続が容易になります。また、一度服用を忘れてしまったとしても、あまり影響がありません。

- PrEPの日々の服用を開始しようとしている方で、数日以内にHIV感染の危険がある行為の予定がある方は、二錠で服用を始めましょう。

- 肛門性交の場合は、毎週四日以上服用することで、良い予防効果が得られます。特に一週間後から良い効果が得られるでしょう。

- 膣性交の場合は、毎日服用する必要があります。

肛門性交に限りオンデマンドPrEPも有効

PrEPを毎日服用したくない方には、必要な時にPrEPを服用するオンデマンドPrEP（頓服）の選択肢もあります。

行為の前後で服用することが大変有効です。オンデマンドPrEPはコンドームなしの肛門性交をあまり行わない方、いつ性行為を行うのか予め把握できる方にとって重要な選択肢といえます。

インターネットで購入されている場合は、服用する錠剤の量が毎日服用する場合と比べてオンデマンドPrEPでは少ないので、オンデマンドの費用がより安価で、副作用も少なくなります。しかし、B型肝炎ウイルスに感染している方はオンデマンドPrEPはできません。

オンデマンドPrEPでは..

1. 性行為の前に通常の二倍の量のPrEPを服用します（二錠）。IPERGAY試験で採用されている、性行為の二時間から二十四時間前までに服用するのが理想的です。
2. 最初に二錠を服用してから二十四時間後に一錠服用します。
3. その二十四時間後、次の日にもう一錠服用します。

最初にPrEPを二錠服用してからそれぞれ二十四時間後と四十八時間後に一錠ずつ飲んでください。

性行為前の服用がHIVウイルスの感染率を最も防いでくれますが、たとえば性行為前に服用できなかった又は服用が遅れてしまったとしても、ただちに二錠服用することである程度の予防効果は期待できます。

次ページにてオンデマンドPrEPの例をいくつか紹介します。

オンデマンドPrEPの例

1. オンデマンドPrEP: 週に一度、性行為を行う場合

性行為の前

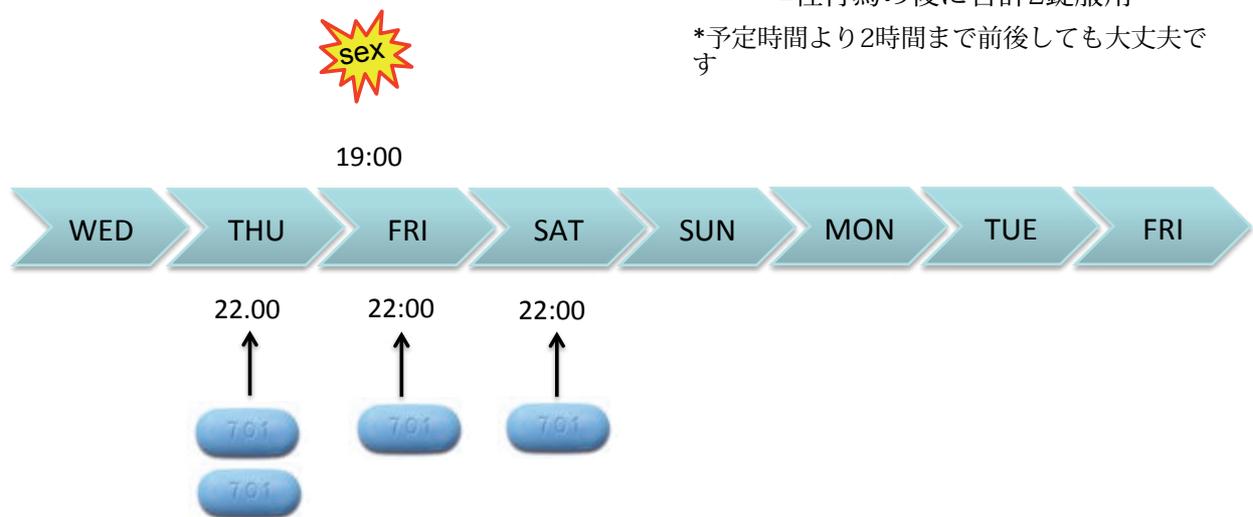
理想として行為の24時間前、少なくとも2時間前までに2錠服用します。

性行為の後

2錠を服用した24時間後に1錠服用します
2錠を服用した48時間後にもう1錠服用します。

=性行為の後に合計2錠服用

*予定時間より2時間まで前後しても大丈夫です



金曜日又は週末に性行為の予定がある場合は、木曜日の例えば22時に2錠服用してください。

金曜日の19時に性行為をしたら、金曜日と土曜日の22時に1錠ずつ服用します。

服用のタイミングはおおよそでも大丈夫です。もし木曜日の18時に服用して、金曜日の23時に性行為を行ったとしても、予防効果があります。もし仮に性行為のわずか二時間前又は直前、直後にPrEPを服用することになってしまっても、服用しないよりは効果があります。

オンデマンドPrEPでは、一度の性行為に合計で四錠のPrEPが必要です。

2. オンデマンドPrEP: 数日間に複数回性行為を行う場合

性行為の前

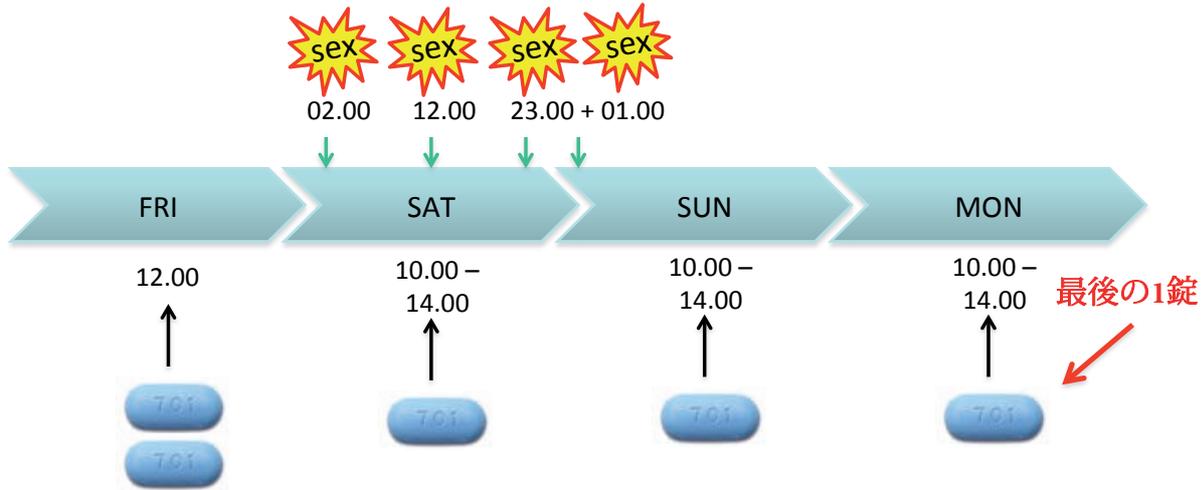
性行為の24時間前から少なくとも2時間前までにPrEPを2錠服用します。

性行為の後

2錠服用してから24時間後に1錠服用します。

最後の性行為から合計で2錠服用するまで、24時間毎にツルバダ®を服用してください。

*予定時間より2時間まで前後しても大丈夫です



性行為の24時間前から2時間前までにPrEPを2錠服用します。

もし土曜日に性行為の予定があり、日曜日の午前1時まで複数回性行為がある場合は最初にPrEPを2錠服用した時刻とほぼ同じ時刻に毎日1錠ずつ、最後の性行為から合計で2錠服用するまで服用を続けて下さい。上の例では、PrEPの服用を終えるのは月曜日になります。

土曜日又は日曜日に性行為を行わなかったが、月曜日には性行為を行うかもしれない場合は、日曜日と月曜日には1錠だけ服用します。これはすでにPrEPの体内濃度が保たれているためです。二日間性行為を行わなくなるまで、毎日PrEPの服用を続けて下さい。この例の場合は水曜日まで服用を続けます。

もしPrEPの服用を始めたのに土曜日に性行為がなく、日曜と月曜に性行為の予定が無い場合はもうPrEPの服用を続ける必要はありません。

3. オンデマンドPrEP:性行為を複数回行い、最後の服用から七日に満たないうちにさらに性行為を行う場合

最初のオンデマンドPrEP

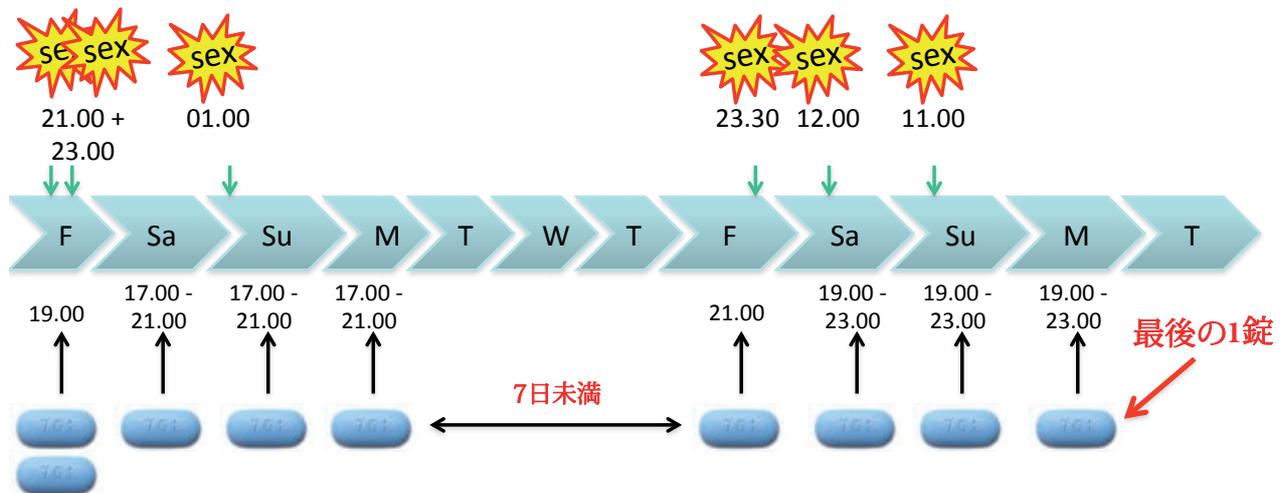
性行為の24時間前から少なくとも2時間前までにPrEPを**2錠**服用します。
最後の性行為から合計で2錠服用するまで24時間毎に1錠ずつ服用します。

*予定時間の2時間まで前後しても大丈夫です。

2度目のオンデマンドPrEP

性行為の24時間前から少なくとも2時間前までにPrEPを**1錠**服用します。
最後の性行為から合計で2錠服用するまで24時間毎に1錠ずつ服用します。

*予定時間の2時間まで前後しても大丈夫です。



最初のオンデマンドPrEPが終わってから7日に満たない間に再び性行為を行う場合は、2度目のオンデマンドPrEP開始時には1錠だけ服用します。

オンデマンドPrEPの最後の1錠を服用してから7日より経過した後再び性行為を行う場合は、通常通りPrEPを2錠服用してオンデマンドPrEPを開始します。

PrEP服用に関するその他のアドバイス

錠剤の服用を忘れてしまった場合..

たまにPrEPを一錠や二錠服用し忘れてしまっても問題ありません。PrEPの服用自体をやめず、思い出した時に服用すれば大丈夫です。HIV感染を防ぐための十分なPrEPの血中濃度は維持されます。もし週に複数回忘れてしまうことがある場合は、医師に相談してください。

もし毎日服用している方が一週間以上服用を忘れてしまった場合は、二倍量(PrEPを二錠)服用することで再開し、その後毎日一錠ずつ服用を続けて下さい。

PrEPの服用を開始する際には決して三錠以上服用してはいけません。開始時に必要なのは二錠だけです。一週間のうち三錠以上服用のある日があれば身体に悪影響を及ぼす可能性があります。

一週間に合計で八錠以上服用してはいけません。

- 錠剤ケースを活用することで服用忘れ又は重複服用を防ぐことができます。薬局で一ポンドくらいで購入可能です。

- 服用の時刻を決めて、その時刻毎に服用するようにして下さい。歯磨きなどの日課と合わせると良いです。服用の時間はきっちり同時刻である必要はありませんが、決めた時刻通りに服用することで日課になりやすいです。

- 一度PrEPの服用をやめ、その間にHIV感染の危険性がある場合は再びHIV検査を受けることが重要です。

- オンデマンドPrEPの際に、もし性行為の前にPrEPを服用することを完全に忘れてしまった場合には、性行為の後でもPrEPを二錠服用し、そして二十四時間毎に服用を続けて下さい。PEPが必要な場合は医師にご相談ください(下記参照)。オンデマンドPrEPを利用されている方は、毎日服用されている方と比べて、服用忘れはより重要な問題になります。

PrEPを服用していても、PEPは必要ですか？

PEPは曝露後予防（post exposure prophylaxis）の略語です。一ヶ月間、三種類の薬を組み合わせで服用します。

PEPは一般的ではありません。しかし、必要になった場合には開始が早ければ早いほど効果があります。PEPは性行為後、七十二時間までであれば処方されます。

- PrEPを十分に服用していなかった又は服用していない時にHIV感染の危険性があった場合は、PEPが必要かどうか医師に相談して下さい。

- PEPの開始が早ければ早いほど効果があるので、もし錠剤が余っているのなら、PrEPを二錠服用することも良いでしょう。

毎日服用とオンデマンドPrEPの切り替えは可能ですか？

もしオンデマンドPrEPが可能であるなら、ライフスタイルが変わってしまってもPrEPは臨機応変に対応できます。

HIV感染の危険の有無に合わせて、PrEPを止めたり再開したり、服用方法を変えたりできます。様々なタイミングで、それぞれのニーズに合わせて、PrEPはカスタマイズできます。

服用方法や必要があれば中止や再開の方法について、医師と納得いくまでご相談下さい。

以下の方はオンデマンドPrEPをご利用になれません。

- B型肝炎ウイルスに感染している方
- 膣への挿入を伴う性行為をされている女性の方。七日間の導入期間が必要となります。
- 膣または肛門への挿入を受ける性行為を行うトランスジェンダーの方とノンバイナリージェンダーの方。

PrEPを完全に止めることはできますか？

服用方法は柔軟なため、PrEPを完全に止めることもできます。

PrEPの服用を止める際には医師ご相談下さい。

PrEPの服用を止める際にはパートナーの方と話し合い、一緒にHIVとその他の性感染症の検査を受けましょう。HIVウイルス感染の危険性がある日から四週間以上後に第四世代HIV迅速検査を受けるようにして下さい。

PrEPの止め方はどのように服用していたかによって異なります。

毎日服用の場合：最後に性行為をしてから七日間はPrEPの服用を続けて下さい。

オンデマンドPrEPの場合：直近に感染の危険性があった行為から四十八時間は、継続して同じ時間帯に服用してください。つまり、行為後、一日一錠二日間服用するようにします。

その後状況が再度変わっても、PrEPは簡単に再開することが出来ます。

PrEPを中止後、HIV感染の危険性が生じた場合、クリニックにPEP(曝露後予防)の必要性について相談してください。PEPを行う場合は、可能な限り早く開始する必要があります(22ページ目を参照)。

関係組織情報

この冊子は、以下の組織の医師およびコミュニティの支援者によって作成されました。

BASHH (SIG MSM)	www.bashh.org
HIV i-Base	i-base.info/prep
iwantprepnow.co.uk	iwantprepnow.co.uk
PrEPster.info	PrEPster.info
56 Dean Street	facebook.com/56DeanStreet
Mortimer Market Centre	cnwl.nhs.uk/service/mortimer-market-centre
cliniQ: sexual health for trans people	cliniq.org.uk
Sophia Forum	sophiaforum.net

Additional links:

PrEP in Scotland	prep.scot
PrEP in Wales	tinyurl.com/ycm2hfbw
IMPACT trial	prepimpacttrial.org.uk
Drug interactions	hiv-druginteractions.org
Trans people and PrEP	cliniq.org.uk
PrEP guidelines	bashh.org and bhiva.org
HPV vaccine for gay men	i-base.info/htb/31151



Central and North West London
NHS Foundation Trust